

日刊 動労千葉

86. 9. 4

No. 2342

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

上をみこは自己保身に及々として 下には「意識改革」の空母ぶをかん

国鉄当局は、九月一日、各区において「区長面接」を実施するとし、職員をよびつけては「調査」なるものを行ってきた。しかも、動労千葉の大会中にコン泥的に強行してきた。このような「区長面接」は言うまでもなく「進路アンケート調査」同様、選別のための調査であり、動労千葉や国労への組織分裂・破壊攻撃であり、断じて認めることはできない。

選別のための調査であり 新たな組織破壊攻撃だ

「区長面接」なるものの内容は、「直営売店」「改革だより」、増収活動・各種提案・共同宣言・多能化教育・広域配転・通信教育」等々について区長が職員個々に「知っているか」とか「どのよう
に思うか」などと質問し「やってみる気はないか」と結局は職場からたたきだす「調査」を面接と称して行ってきた。われわれは、十万人首切りを目的とした質問の項目のどれひとつも容認することはできない。何よりも「直営売店」や「増収活動」をやれなどは「選別」を恫喝的にちらつかせ、組織破壊を行う目的以外にない。

「国鉄改革」の矛盾噴出で さらに凶暴化する攻撃

今、長期債務、国鉄共済、整備新幹線問題や清算事業団・新事業体の財源をめぐって解決ができないことなど明らかに
なってきた。八月二七日発表された八五年度調査報告は「一日も早く抜本的な国鉄改革を」などと分割・民営を来年四月よりスタートさせることを示唆しているが、赤字の根本原因に何ひとつ触れようとせず、再建監理委「答申」を基本にしたもので「六二・四・一」へ向けてすべ

ての犠牲を国鉄労働者と利用者・国民に押しつける「国鉄改革」の矛盾が鮮明となってきた。

自己保身の「区長」に 自分の将来を任せられない

分割・民営化方針の欺まん性が明らかになる一方で焦る当局は様々な組合破壊の攻撃にでており、さらに凶暴化するこ
とは必至である。自己保身に汲々な区長にわれわれの将来の保証などできるわけがないし、任せるわけにもいかないの
である。

一人ひとりが活動家となつて

今大会は、多くの代議員から「六十数名の労働者が自ら命を断つた。その責任の半分は労働組合にある。闘わなければ動労千葉はどうなっていたらうか。

正念場中の正念場に立たされている国鉄労働者として本大会で勝ちとるべき課題は勝つために一人ひとりが活動家となつて闘いぬくことだ」の発言がなされた。

「広域配転」「多能化教育」「人材活用センター」などと 国鉄労働者一人ひとりに直接的にかけられているものであり、「一人ひとりが活動家となつて」実践するものとして「区長面接」なるものを断固はねかえしていこう。

・「民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

これでも「黒字」になるのが、否か 「区長面接」強行 区長は答えてみよ

国鉄 分 害

累積債務ズシリ
政府に財政支援要請

今年度より
債務返済

3兆数千億円
で3兆数千億円

毎年2兆円
削減

10年近く
民営化後も

初年度の資金不足
なんと2兆8600億円

国鉄清算事業団